

構築会兵庫支部 平成12年度総会・講演会の概要

平成12年度の講演会は、11月に恒例のとおり総会終了後に44名が参加しての開催です。ご来賓として、高原彊次構築会会長と建築工学専攻長今井克彦教授をお迎えし、講師には関西国際空港(株)建設事務所次長の白石修章氏(C76)をお招きして「関西国際空港建設における水域環境の保全と創造について」と題してお話いただきました。

周知のとおり関西国際空港は大阪府泉州沖5kmに建設された24時間運用の海上空港で、面積約510ha、3,500mの滑走路を備えており、対岸のりんくうタウンとは長さ3,750mの連絡橋で結ばれています。平成6年9月の開港から関西地域と世界の空を結び、平成11年度の発着回数は国際線と国内線を合わせて11万8千回となっています。

関西国際空港は、成り立ちそのものが騒音という空港にとって根幹的な環境問題への対策ということにあります。その建設工事に当たっても水質、騒音、大気質等の周辺環境に及ぼす影響の把握・評価と必要に応じて適切な措置を講じることが目的とする環境監視計画を定め、様々な環境監視が続けられています。また、空港島の存在に係る海域環境への配慮から、海藻を生育させやすく多様な生態系を創出できる緩傾斜護岸が総延長の約8割(1期事業)に当たる区間で採用されており、2期事業でも約9割で採用されとのこと。2本目の滑走路(4,000m)を整備する2期事業は、その施行主体となる用地造成会社が平成8年に設立されて、昨年より工事が始まっています。

具体の環境監視に当たっては、コンピュータ処理による環境監視システムを確立し、監視・予測結果を工事施工現場へフィードバックすることによって、水域環境の保全と創造に取り組んでおられるとのことでした。また、空港島の護岸の90%に藻類が付着し、魚類の産卵の場になるとともに二酸化炭素の固定や酸素の発生に寄与していることや、1期工事の環境「創造」から2期工事では環境「保全」に移行していることなど、興味深い話をお聞きました。

講演会終了後の懇親会では、講師やご来賓を囲んで様々な情報交換を行い、有意義な交流の場を持つことができました。